

(独) 情報処理推進機構 ITスキル標準センター

IT人材市場動向予備調査

【調査結果報告】 (後編)

本資料の構成

p.3 第1章 学生向けWEB調査結果

第1章

学生向けWEB調査結果

WEBアンケート調査概要

実施目的

- ◆ 現在、情報サービス・ソフトウェア産業は、就業先として人気があるのか、その人気の現状を把握する。もし仮にあまり人気がないとすれば、その原因は何なのか、可能な範囲で把握を試みる。
- ◆ 情報サービス・ソフトウェア産業に対しては、「残業時間が長い」などのネガティブなイメージが広まっていることを懸念する声もある。そのような懸念に関する現状を把握するために、学生の間での情報サービス・ソフトウェア産業に対する一般的なイメージを把握する。
- ◆ 現在の学生が、仕事に求める条件とは何なのか、また、ITに関する仕事では、その条件がどれだけ満たされると学生は考えているのか、学生が抱くITに関する仕事のイメージを探る。

設問概要

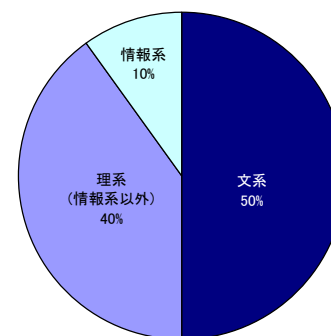
- ◆ 専攻分野選択の際の職業の重視度
- ◆ 就業を希望する産業
- ◆ 情報サービス・ソフトウェア産業に対するイメージ
- ◆ ITに関する仕事に対する興味
- ◆ 仕事における“やりがい”
- ◆ ITに関する仕事における“やりがい” など

実施期間

- ◆ 調査実施期間：2007年7月中旬

対象者

- ◆ 大学3年生以上の学生1,000名を対象
- ◆ 文系500名、理系500名（うち100名は情報系）



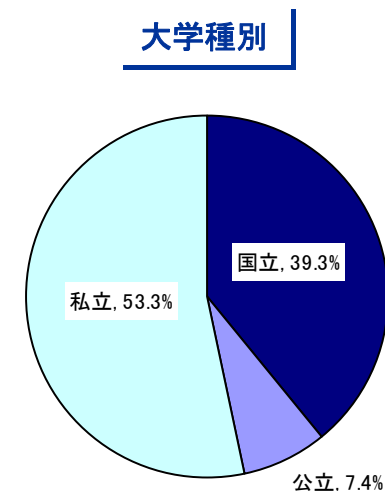
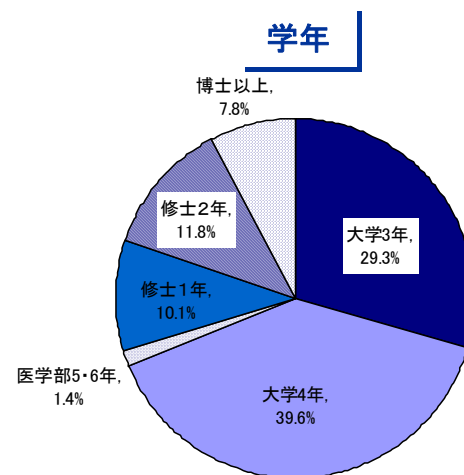
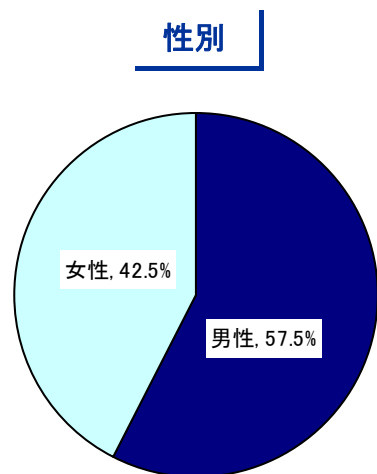
専攻		N	%
文系	人文系	204	20.4%
	社会系	253	25.3%
	芸術系	25	2.5%
	家政学系	10	1.0%
	その他文系	8	0.8%
理系 (情報系以外)	理学系	79	7.9%
	工学系	188	18.8%
	農学系	36	3.6%
	医歯薬学系	88	8.8%
	その他理系	9	0.9%
	情報系	100	10.0%
合計		1000	100.0%

※ 情報系とは情報科学・情報工学を専攻する学生を指す。

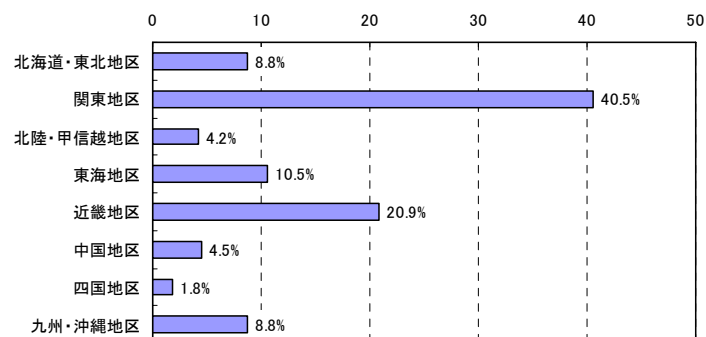
調査結果① ～回答者属性～

回答者属性

- ◆ 専攻分野以外の回答者属性は、以下のとおり(専攻分野については、前頁に掲載)。

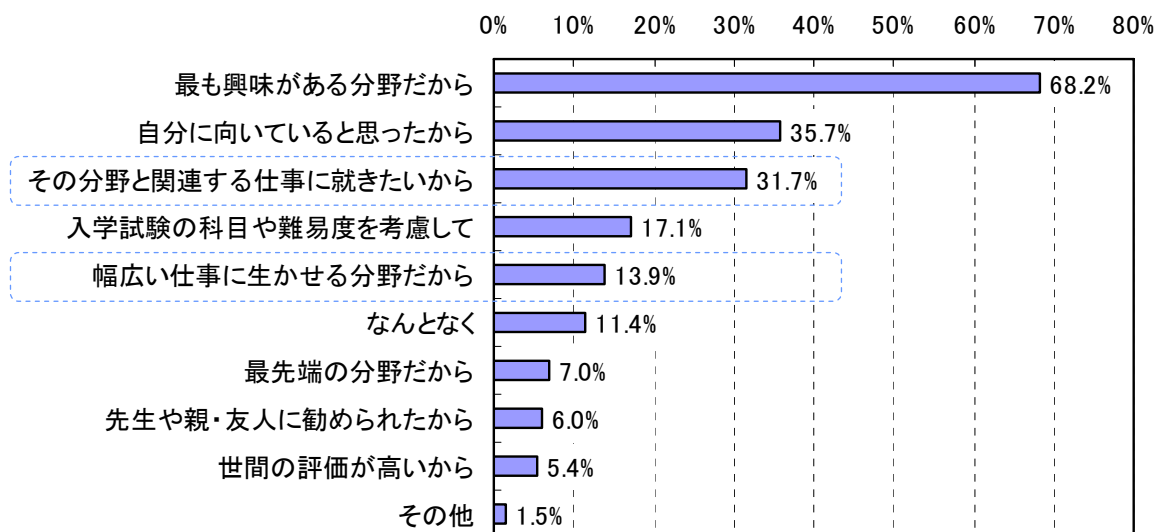


居住地区



調査結果② ～専攻分野選択の理由～

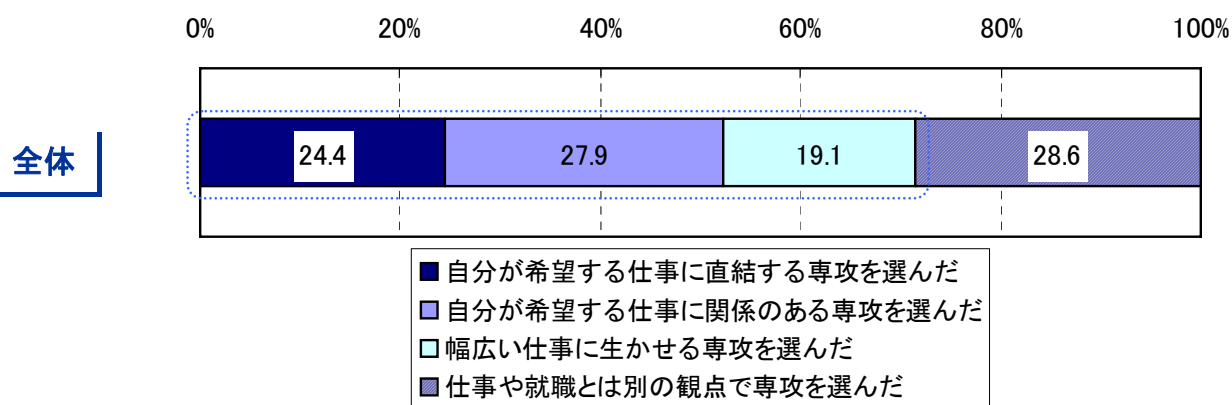
専攻分野選択の理由



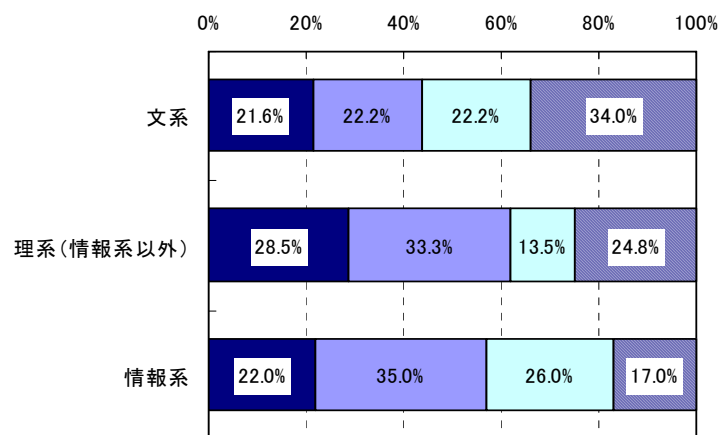
- ◆ 今回は、職業や産業の人気と、学生の専攻分野選びとの関連性を把握することを目的として、学生に対して、現在の専攻分野を選択した理由(本頁)や、希望する職業をどの程度考慮したか(次頁)を尋ねた。
- ◆ 現在の専攻を選んだ理由として最も多いものは、「最も興味がある分野だから」。学生のほとんどは、自分の興味や適性を重視して専攻分野を選択しているとみられる。
- ◆ 「その分野と関連する仕事に就きたいから」「幅広い仕事に生かせる分野だから」など、将来の仕事とのつながりを考慮して専攻を選択した学生は半数近い。なお、この傾向は、理系(情報系も含む)において顕著にみられる。

調査結果② ～専攻分野と希望職業～

専攻分野と希望職業とのつながりをどの程度考慮したか



専攻別

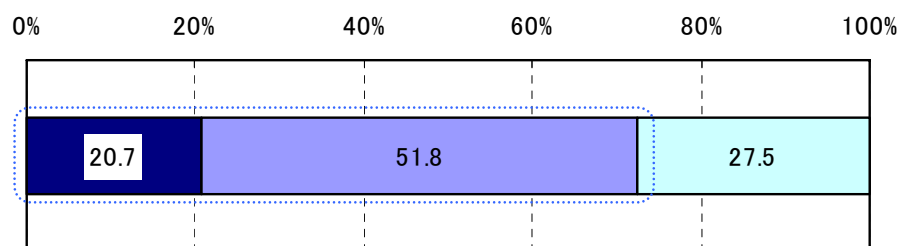


- ◆ 「自分が希望する仕事に直結する専攻を選んだ」「自分が希望する仕事に関係のある専攻を選んだ」を併せると、半数を超える。
- ◆ 「幅広い仕事に生かせる専攻を選んだ」まで含めると、約7割の学生が、将来の仕事を考えて専攻を選択していると言える。
- ◆ 理系の方が、将来希望する仕事を意識して専攻を選択する傾向が強い。

調査結果② ～仕事と専攻のつながり～

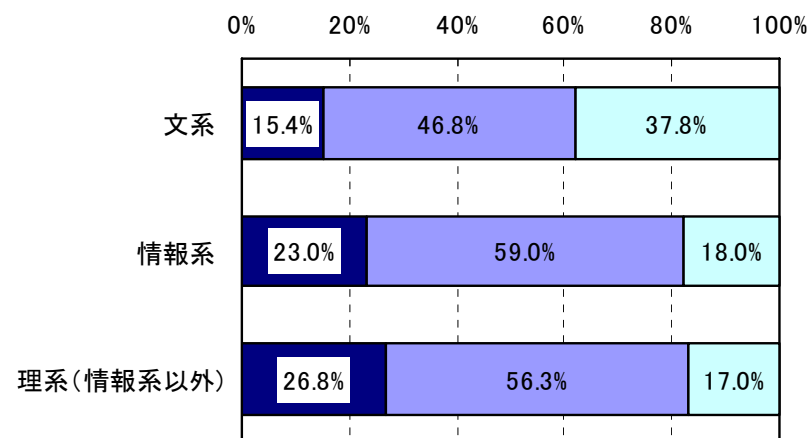
仕事の選択の際に専攻とのつながりを重視するか

全体



- 非常に重視する（専攻が生かせない仕事には就きたくない）
- ある程度重視する（できれば専攻が生かせる仕事に就きたい）
- あまり重視しない（専攻と全く関係のない仕事でも構わない）

専攻別

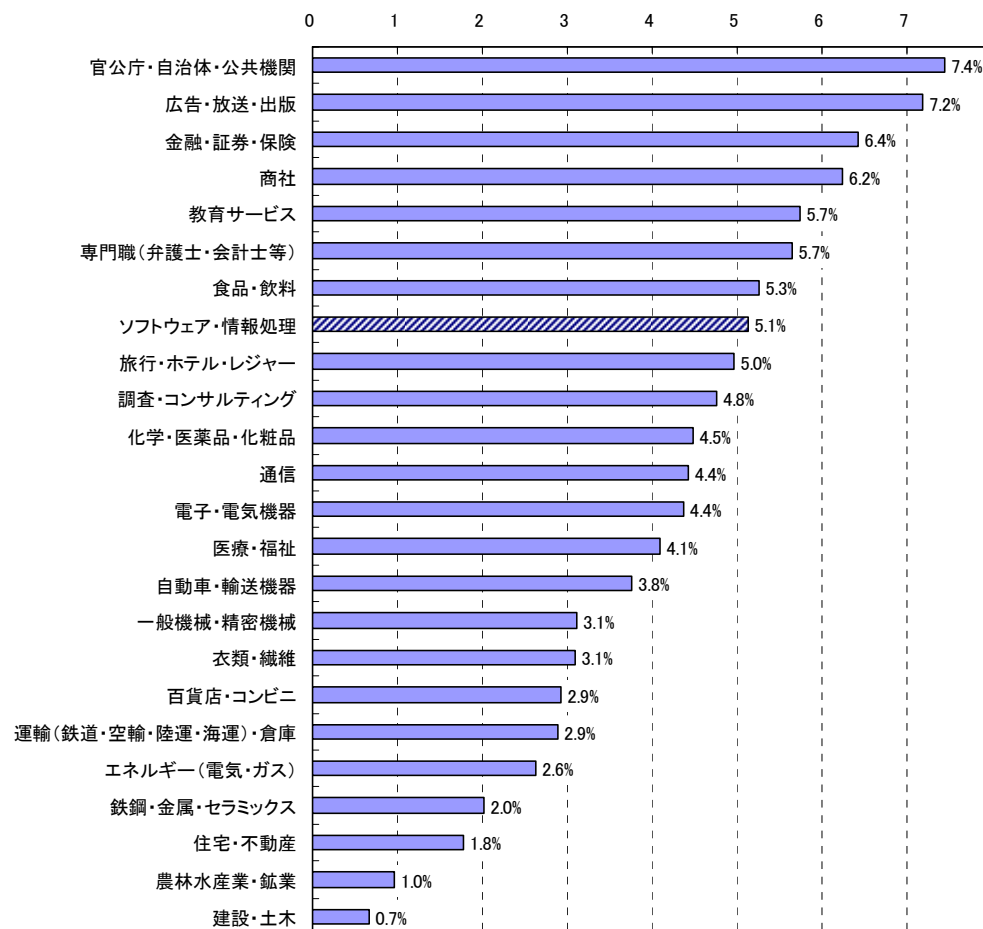


- ◆ 仕事と専攻とのつながりを「非常に重視する」「ある程度重視する」と答えた学生を併せると、7割を超える。
- ◆ 専攻別にみると、理系の学生の方が、専攻と仕事のつながりを重視する傾向にある。
- ◆ 情報系とそれ以外では、それほど大きな違いはみられない。

調査結果③ ～就職を希望する産業～

就職を希望する産業

- ◆ 右図は、学生に「就職を希望する産業」を尋ねた結果。
- ◆ なお、今回は、全体1000名中、情報系が100名と、実際の専攻別の学生分布よりも、かなり情報系の比率が高いため、集計の際に、実際の回答結果を、実際の学生の文系・理系・情報系の割合に従って、ウェイトバックしている(今回用いた割合については、右下参照)。
- ◆ 「ソフトウェア・情報処理」業界は、総合第8位という結果になった。
- ◆ しかし、全24業種中の第8位であるため、全体の中では、中位に位置付けられていると言える。



※文部科学省の調査結果、及び東京大学武市教授の調査結果より、「大学卒業生数(年間約50万人)」、「理工系卒業生数(年間 約10万人)」、「情報工学系学部学科卒業生数(年間約1.5万人)」として、学生の構成比を算出した。

調査結果③ ～就職を希望する産業～

就職を希望する産業（専攻別）

順位	文系	%
1	広告・放送・出版	33.8
2	官公庁・自治体・公共機関	30.2
3	金融・証券・保険	30.0
4	商社	29.2
5	教育サービス	26.4
6	専門職（弁護士・会計士等）	26.4
7	旅行・ホテル・レジャー	23.8
8	調査・コンサルティング	21.0
9	食品・飲料	20.6
10	ソフトウェア・情報処理	18.0
11	通信	17.4
12	医療・福祉	14.2
13	電子・電気機器	13.8
14	百貨店・コンビニ	13.8
15	化学・医薬品・化粧品	13.4
16	衣類・繊維	13.2
17	自動車・輸送機器	12.4
18	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	11.8
19	一般機械・精密機械	9.4
20	エネルギー（電気・ガス）	8.6
21	住宅・不動産	8.2
22	鉄鋼・金属・セラミックス	6.4
23	農林水産業・鉱業	2.4
24	建設・土木	1.8

順位	理系(情報系外)	%
1	化学・医薬品・化粧品	37.5
2	官公庁・自治体・公共機関	28.0
3	電子・電気機器	27.0
4	医療・福祉	25.8
5	自動車・輸送機器	24.0
6	食品・飲料	24.0
7	一般機械・精密機械	22.8
8	ソフトウェア・情報処理	20.8
9	エネルギー（電気・ガス）	17.3
10	鉄鋼・金属・セラミックス	14.8
11	通信	13.0
12	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	10.5
13	調査・コンサルティング	10.3
14	教育サービス	10.0
15	農林水産業・鉱業	10.0
16	衣類・繊維	9.5
17	商社	8.8
18	広告・放送・出版	8.5
19	金融・証券・保険	8.5
20	専門職（弁護士・会計士等）	8.3
21	建設・土木	6.0
22	旅行・ホテル・レジャー	4.5
23	百貨店・コンビニ	3.3
24	住宅・不動産	3.0

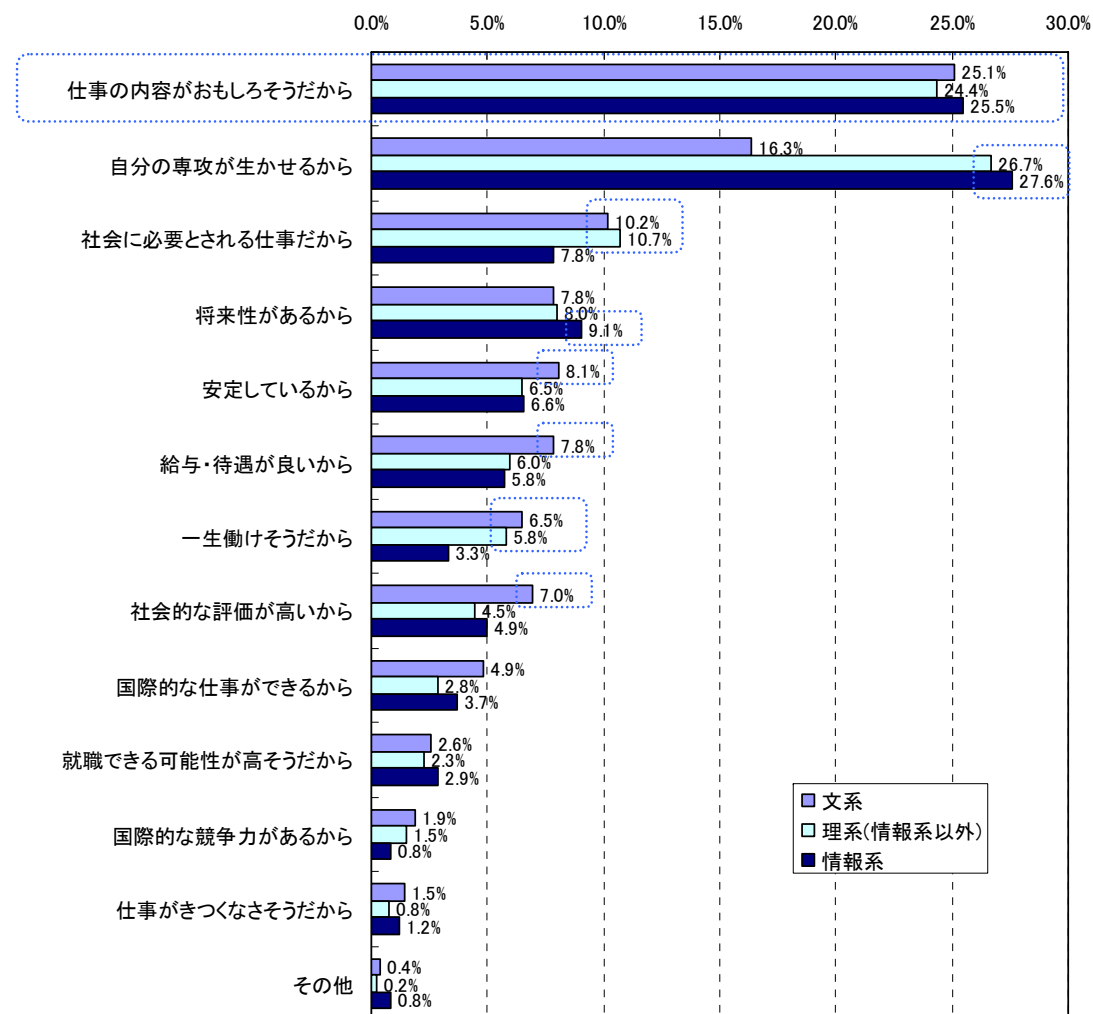
順位	情報系	%
1	ソフトウェア・情報処理	78.0
2	通信	50.0
3	電子・電気機器	47.0
4	一般機械・精密機械	22.0
5	自動車・輸送機器	21.0
6	官公庁・自治体・公共機関	20.0
7	調査・コンサルティング	18.0
8	広告・放送・出版	17.0
9	エネルギー（電気・ガス）	14.0
10	金融・証券・保険	14.0
11	商社	10.0
12	教育サービス	9.0
13	医療・福祉	9.0
14	食品・飲料	8.0
15	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	8.0
16	専門職（弁護士・会計士等）	8.0
17	百貨店・コンビニ	7.0
18	旅行・ホテル・レジャー	7.0
19	鉄鋼・金属・セラミックス	6.0
20	化学・医薬品・化粧品	6.0
21	衣類・繊維	5.0
22	建設・土木	3.0
23	住宅・不動産	3.0
24	農林水産業・鉱業	1.0

- ◆ 専攻別にみると、「情報系」では、「ソフトウェア・情報処理」産業が1位となっており、8割近い学生が、「ソフトウェア・情報処理」産業への就職を希望している。
- ◆ 文系でも10位、情報系以外の理系でも8位となっており、順位はそれほど低迷しているわけではない。

調査結果③ ～業種(産業)を選ぶ理由～

その産業を選んだ理由

- ◆ 就職先産業を選んだ理由としては、「仕事の内容が面白そうだから」が最も多い。
- ◆ ただし、専攻別にみると、理系(情報系を含む)では、「自分の専攻が活かせるから」と回答した学生が最も多い。
- ◆ 専攻が活かせるかどうかを重視する理系に対して、文系の学生は、「給与・待遇が良いから」「社会的な評価が高いから」などの理由で産業を選ぶ傾向がある。
- ◆ 情報系の学生は、他専攻の学生よりも、「将来性があるから」との理由がやや多いほか、「一生働けそうだから」「国際的な競争力があるから」などの理由を選択した学生が少ない。



調査結果④ ～情報系産業のイメージ～

産業別イメージ

【今後の日本を支えていく】

順位	業界	%
1	医療・福祉	34.2
2	自動車・輸送機器	33.1
3	官公庁・自治体・公共機関	32.5
4	電子・電気機器	23.6
5	ソフトウェア・情報処理	19.2
6	エネルギー（電気・ガス）	18.1
7	一般機械・精密機械	16.6
8	専門職（弁護士・会計士等）	15.4
9	教育サービス	15.1
10	化学・医薬品・化粧品	14.5
11	通信	12.3
12	金融・証券・保険	9.9
13	鉄鋼・金属・セラミックス	9.5
14	農林水産業・鉱業	9.1
15	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	6.3
16	商社	5.9
17	食品・飲料	4.9
18	調査・コンサルティング	4.2
19	広告・放送・出版	3.6
20	建設・土木	3.5
21	百貨店・コンビニ	2.8
22	衣類・繊維	2.5
23	旅行・ホテル・レジャー	1.6
24	住宅・不動産	1.6

【人気が高く就職が難しい】

順位	業界	%
1	官公庁・自治体・公共機関	42.4
2	広告・放送・出版	39.3
3	商社	30.1
4	専門職（弁護士・会計士等）	29.3
5	自動車・輸送機器	26.9
6	金融・証券・保険	26.6
7	旅行・ホテル・レジャー	16.7
8	医療・福祉	12.0
9	化学・医薬品・化粧品	11.4
10	ソフトウェア・情報処理	9.2
11	電子・電気機器	8.6
12	調査・コンサルティング	7.2
13	食品・飲料	6.6
14	エネルギー（電気・ガス）	5.8
15	一般機械・精密機械	4.7
16	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	4.7
17	教育サービス	4.4
18	通信	4.1
19	衣類・繊維	2.8
20	百貨店・コンビニ	2.3
21	鉄鋼・金属・セラミックス	1.6
22	建設・土木	1.6
23	住宅・不動産	1.4
24	農林水産業・鉱業	0.3

- ◆ 「今後の日本を支えていく」において、「ソフトウェア・情報処理」産業は、比較的上位にランクされている。
- ◆ 「ソフトウェア・情報処理」産業の将来性は、学生の間でも比較的高く評価されているとみられる。
- ◆ 「人気が高く就職が難しい」については、やや順位を下げている。

調査結果④ ～情報系産業のイメージ～

産業別イメージ

【働いている人たちの満足度が高い】

順位	業界	%
1	専門職(弁護士・会計士等)	30.6
2	官公庁・自治体・公共機関	28.1
3	広告・放送・出版	26.1
4	自動車・輸送機器	23
5	旅行・ホテル・レジャー	21.3
6	商社	19.6
7	医療・福祉	17.5
8	金融・証券・保険	13.9
9	教育サービス	11.8
10	ソフトウェア・情報処理	10.9
11	化学・医薬品・化粧品	10.4
12	食品・飲料	9.8
13	調査・コンサルティング	9.1
14	百貨店・コンビニ	8.9
15	電子・電気機器	8.8
16	衣類・繊維	8.1
17	エネルギー(電気・ガス)	7.6
18	一般機械・精密機械	6.7
19	運輸(鉄道・空輸・陸運・海運)・倉庫	5.4
20	通信	5.2
21	建設・土木	4.6
22	農林水産業・鉱業	4.6
23	鉄鋼・金属・セラミックス	4.4
24	住宅・不動産	3.6

【優秀な学生が就職する】

順位	業界	%
1	専門職(弁護士・会計士等)	61.2
2	官公庁・自治体・公共機関	45.7
3	医療・福祉	30.9
4	商社	22.4
5	金融・証券・保険	22.3
6	自動車・輸送機器	17.5
7	化学・医薬品・化粧品	17.1
8	広告・放送・出版	12.5
9	電子・電気機器	11.8
10	調査・コンサルティング	9.8
11	ソフトウェア・情報処理	9.6
12	一般機械・精密機械	7.3
13	エネルギー(電気・ガス)	5.7
14	鉄鋼・金属・セラミックス	3.6
15	運輸(鉄道・空輸・陸運・海運)・倉庫	3.5
16	教育サービス	3.1
17	旅行・ホテル・レジャー	2.9
18	通信	2.8
19	食品・飲料	2.4
20	百貨店・コンビニ	1.9
21	衣類・繊維	1.8
22	建設・土木	1.8
23	住宅・不動産	1.3
24	農林水産業・鉱業	1.1

- ◆ 「働いている人たちの満足度が高い」「優秀な学生が就職する」などの項目についても、それほど上位にはランクされない結果となった。
- ◆ なお、次頁の専攻別の集計結果をみると、どの項目についても、情報系の学生の方が、「ソフトウェア・情報処理」産業に対して、概ね良いイメージを持っていると言える。

調査結果④ ～情報系産業のイメージ～

産業別イメージ（専攻別）

◆（コメント前頁）

【人気が高く就職が難しい】

文系	順位	%
広告・放送・出版	1	45.6
官公庁・自治体・公共機関	2	40.4
商社	3	30.6
専門職(弁護士・会計士等)	4	29.4
金融・証券・保険	5	26.2
自動車・輸送機器	6	24.4
旅行・ホテル・レジャー	7	21.8
医療・福祉	8	9.6
電子・電気機器	9	8.2
ソフトウェア・情報処理	10	7.2
食品・飲料	11	7.0
調査・コンサルティング	12	6.8
化学・医薬品・化粧品	13	6.6
エネルギー(電気・ガス)	14	5.8
一般機械・精密機械	15	5.2

理系(情報系以外)	順位	%
官公庁・自治体・公共機関	1	43.5
広告・放送・出版	2	31.8
商社	3	30.5
専門職(弁護士・会計士等)	4	29.8
自動車・輸送機器	5	29.0
金融・証券・保険	6	27.8
化学・医薬品・化粧品	7	18.8
医療・福祉	8	14.5
旅行・ホテル・レジャー	9	11.0
ソフトウェア・情報処理	10	10.3
電子・電気機器	11	8.8
調査・コンサルティング	12	8.3
食品・飲料	13	7.0
エネルギー(電気・ガス)	14	5.0
運輸(鉄道・空輸・海運)・倉庫	15	4.8

情報系	順位	%
官公庁・自治体・公共機関	1	48.0
広告・放送・出版	2	38.0
自動車・輸送機器	3	31.0
専門職(弁護士・会計士等)	4	27.0
商社	5	26.0
金融・証券・保険	6	24.0
ソフトウェア・情報処理	7	15.0
旅行・ホテル・レジャー	8	14.0
医療・福祉	9	14.0
電子・電気機器	10	10.0
エネルギー(電気・ガス)	11	9.0
一般機械・精密機械	12	6.0
化学・医薬品・化粧品	13	6.0
教育サービス	14	5.0
調査・コンサルティング	15	5.0

【今後の日本を支えていく】

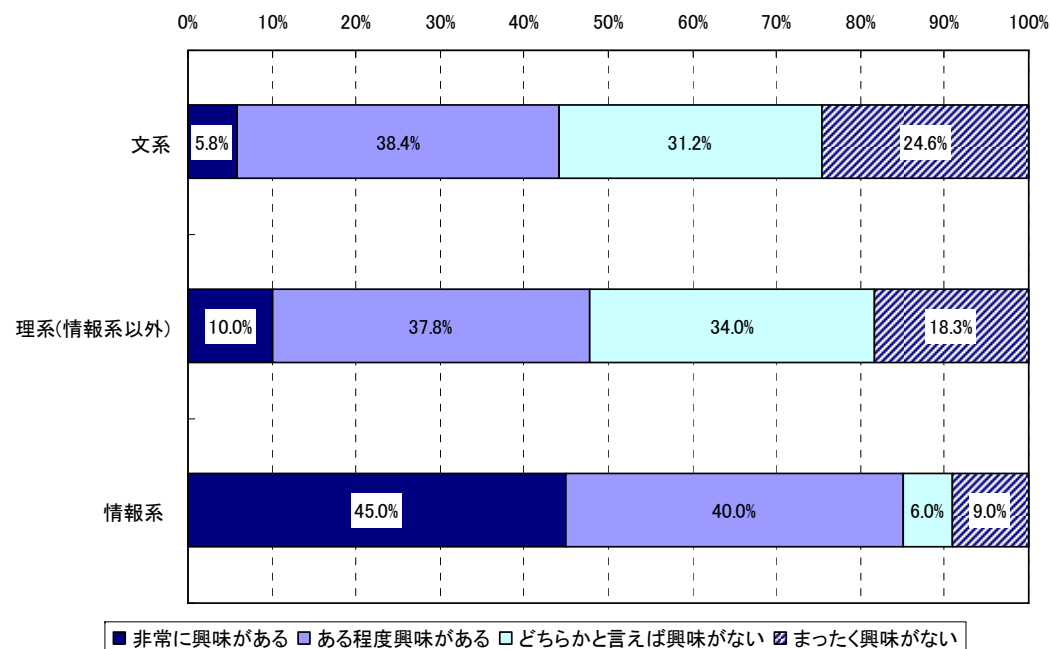
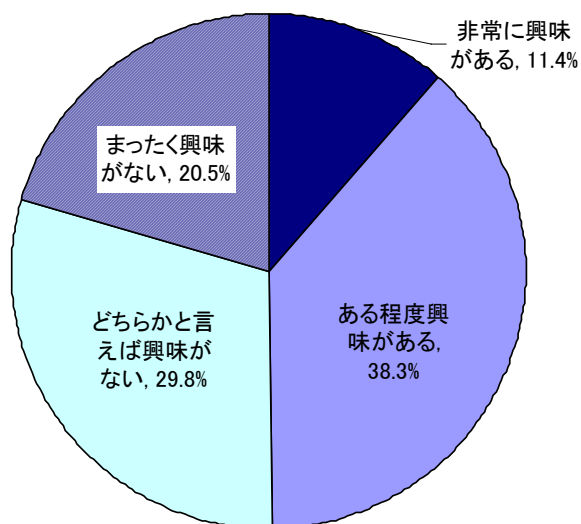
文系	順位	%
官公庁・自治体・公共機関	1	36.8
医療・福祉	2	35.0
自動車・輸送機器	3	31.2
電子・電気機器	4	20.0
専門職(弁護士・会計士等)	5	19.8
ソフトウェア・情報処理	6	19.0
教育サービス	7	16.2
エネルギー(電気・ガス)	8	14.8
一般機械・精密機械	9	13.8
金融・証券・保険	10	13.0
通信	11	13.0
化学・医薬品・化粧品	12	9.2
農林水産業・鉱業	13	9.0
鉄鋼・金属・セラミックス	14	8.8
運輸(鉄道・空輸・海運)・倉庫	15	7.0

理系(情報系以外)	順位	%
自動車・輸送機器	1	36.5
医療・福祉	2	34.5
官公庁・自治体・公共機関	3	29.8
電子・電気機器	4	25.8
化学・医薬品・化粧品	5	22.3
エネルギー(電気・ガス)	6	21.3
一般機械・精密機械	7	21.3
ソフトウェア・情報処理	8	16.5
教育サービス	9	13.8
専門職(弁護士・会計士等)	10	11.3
鉄鋼・金属・セラミックス	11	10.5
農林水産業・鉱業	12	9.3
通信	13	9.3
金融・証券・保険	14	6.5
運輸(鉄道・空輸・海運)・倉庫	15	6.3

情報系	順位	%
電子・電気機器	1	33.0
ソフトウェア・情報処理	2	31.0
自動車・輸送機器	3	29.0
医療・福祉	4	29.0
エネルギー(電気・ガス)	5	22.0
官公庁・自治体・公共機関	6	22.0
通信	7	21.0
教育サービス	8	15.0
一般機械・精密機械	9	12.0
化学・医薬品・化粧品	10	10.0
専門職(弁護士・会計士等)	11	10.0
鉄鋼・金属・セラミックス	12	9.0
広告・放送・出版	13	9.0
農林水産業・鉱業	14	9.0
金融・証券・保険	15	8.0

調査結果⑤ ～IT関連の仕事への興味～

ITに関する仕事に興味があるか

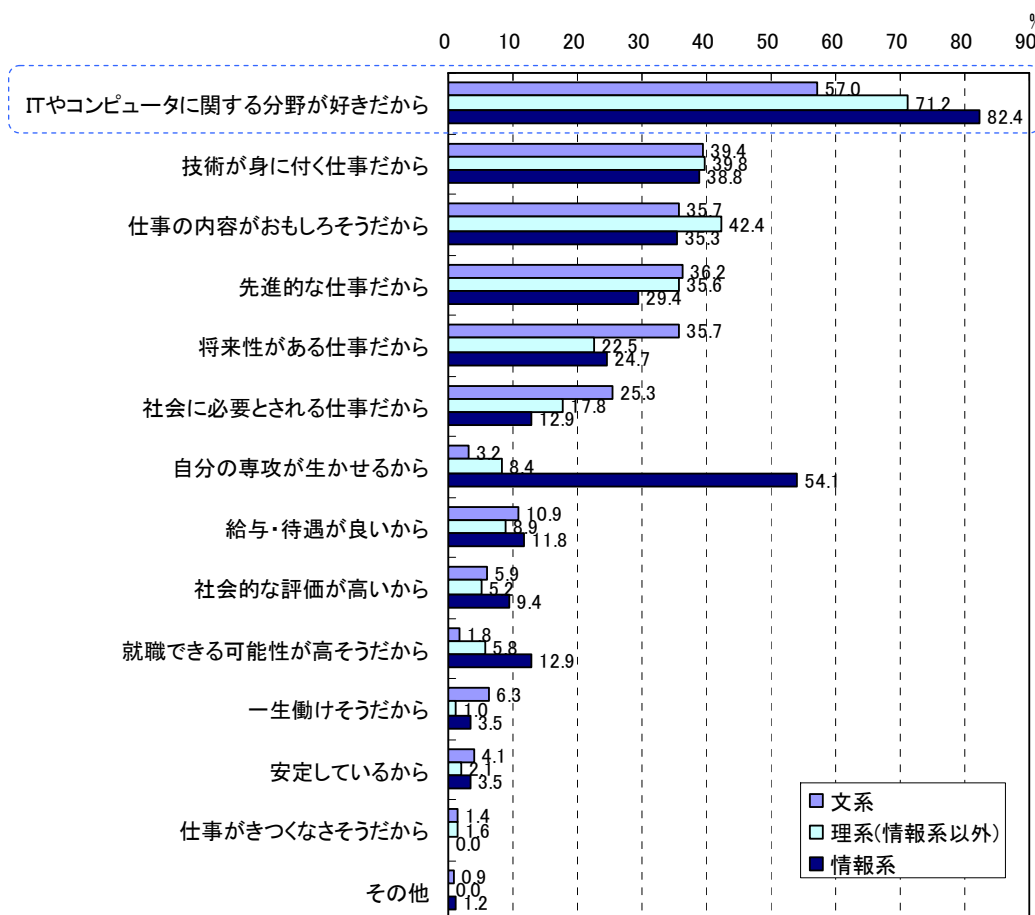


- ◆ 現在、IT関連職種は、情報サービス・ソフトウェア産業以外にも、広範な産業に分布している。このような現状をふまえて、今回の調査では、学生に対して、「ITに関する仕事に就くことに興味があるか」を尋ねた。
- ◆ 結果として、全体の約半数の学生は、「ITに関する仕事」に就くことに興味を持っている。
- ◆ 情報系の学生については、約85%が、「非常に興味がある」「ある程度興味がある」と答えている。なお、情報系の学生でも、約15%の学生が、「どちらかと言えば興味がない」「まったく興味がない」と答えている。

調査結果⑤ ～IT関連の仕事への興味～

ITに関する仕事に興味がある理由

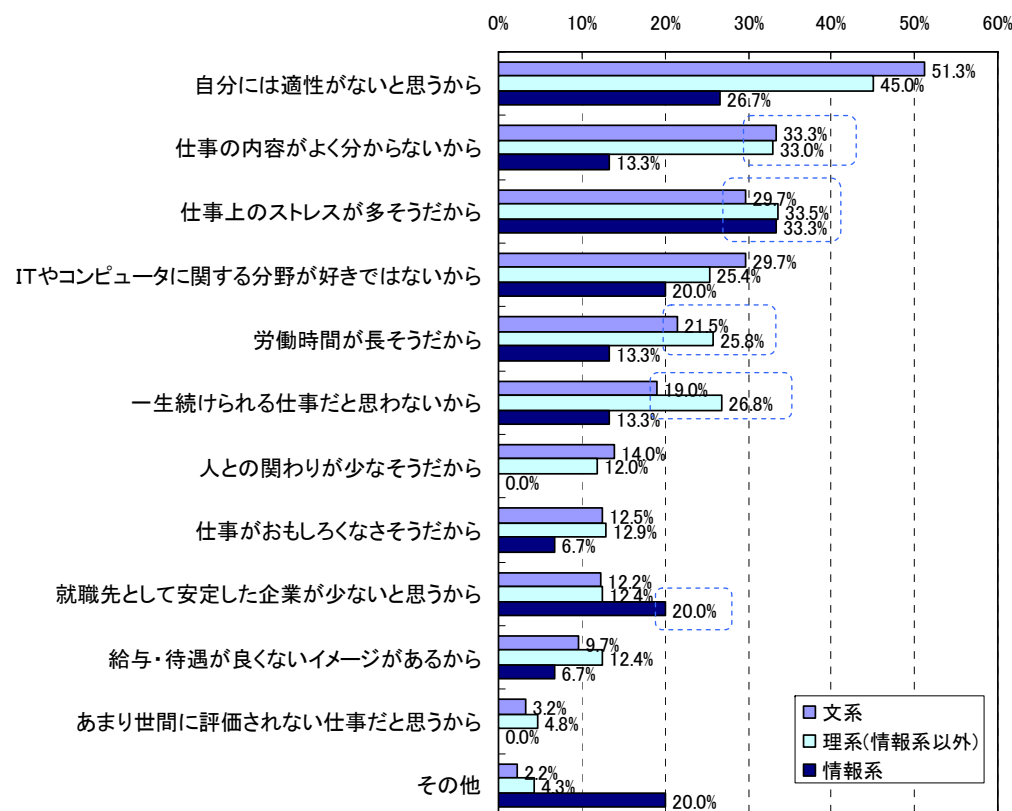
- ◆ ITに関する仕事に興味がある理由としては、専攻を問わず、「ITやコンピュータに関する分野が好きだから」が最も多い。
- ◆ その他に多い理由は、「技術が身に付く仕事だから」「仕事の内容が面白そうだから」など。
- ◆ 「将来性がある仕事だから」「社会に必要とされる仕事だから」との回答は、文系の学生に多い。
- ◆ 情報性の学生は、「自分の専攻が生かせるから」との答えが最も多い。



調査結果⑤ ～IT関連の仕事への興味～

ITに関する仕事に興味がない理由

- ◆ ITに関する仕事に興味がない理由としては、全体では、「自分には適性がないと思うから」が最も多い。
- ◆ 次に、「仕事の内容がよく分からないから」という理由が挙げられた。この理由は、情報系には少なく、文系と情報系以外の理系の学生に多くみられる。
- ◆ その他、文系と情報系以外の理系の学生に多い回答は、「労働時間が長そうだから」「一生続けられる仕事だと思わないから」など。
- ◆ 「仕事上のストレスが多そうだから」という理由は、専攻にかかわらず多い。
- ◆ 情報系の学生の回答と、他専攻の学生の回答には差がみられる。情報系の学生の中で最も多い回答は、「仕事上のストレスが多そうだから」となった。また、「就職先として安定した企業が少いと思うから」との理由も比較的多い。

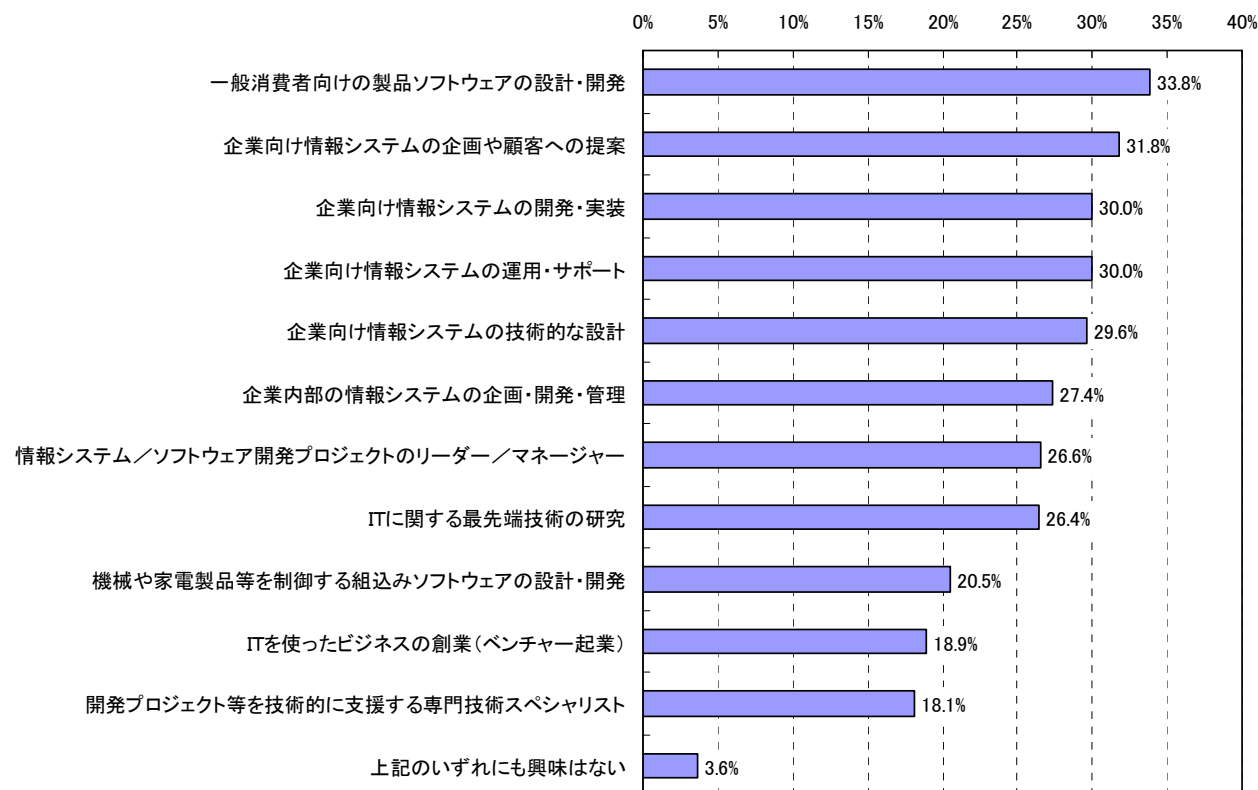


※ この設問については情報系専攻者の回答数が少ない(N=15)点に留意が必要。

調査結果⑤ ～IT関連の仕事への興味～

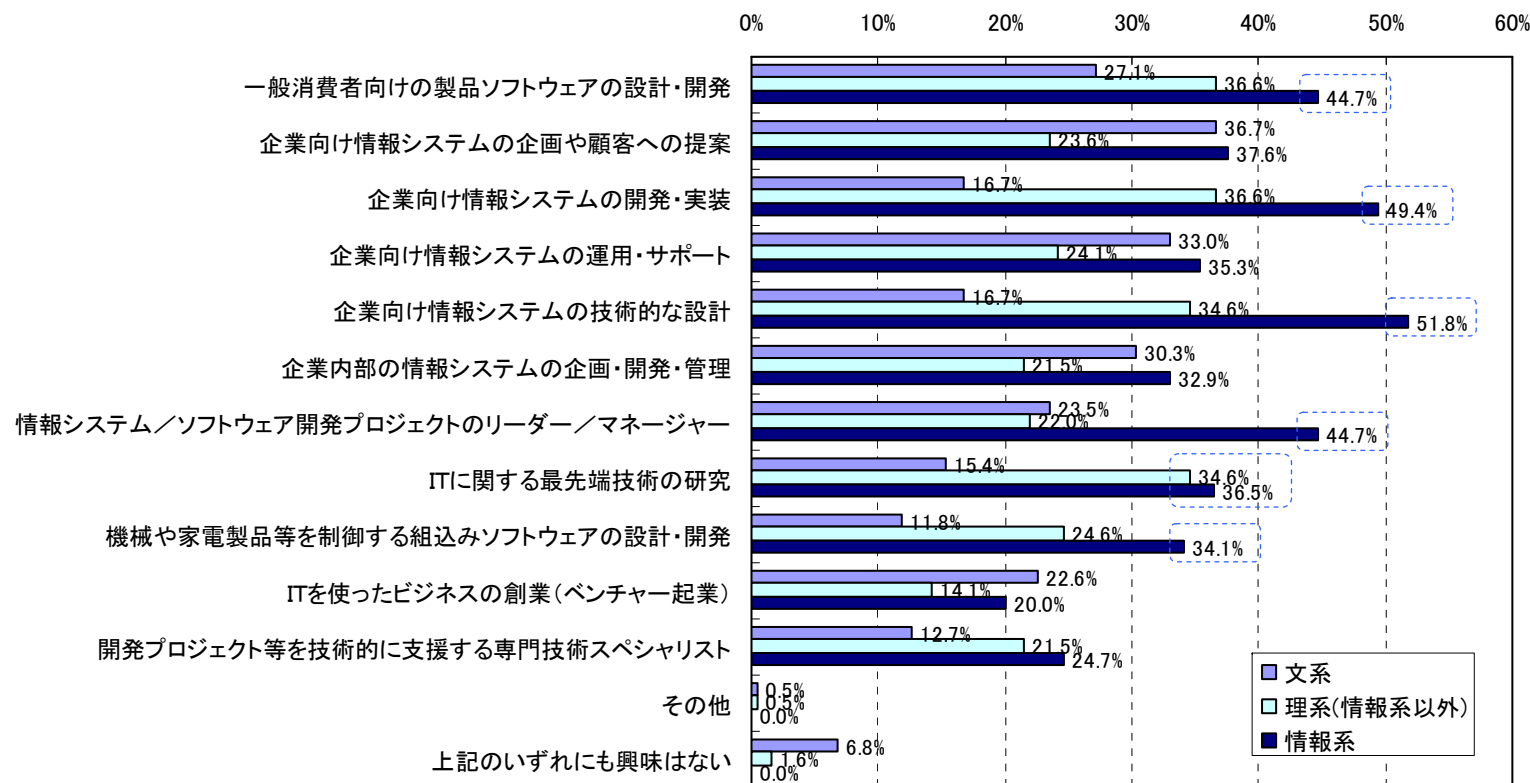
ITに関する仕事のうち興味がある仕事

- ◆ ITに関する仕事のうち、興味のある仕事についての設問では、「一般消費者向けシステムの開発・設計」が最上位となった。学生に身近な商品に関わる仕事やイメージしやすい仕事が上位に並んでいる。
- ◆ 「企業向け情報システムの企画や顧客への提案」は、第2位となった。企画や提案などの仕事も、学生にとっては、興味のある仕事とみられている。
- ◆ 逆に、ベンチャーの起業や、専門技術スペシャリストを志向する学生は、少ないという結果になった。
- ◆ 次頁に、専攻別の集計結果を記載。



調査結果⑤ ～IT関連の仕事への興味～

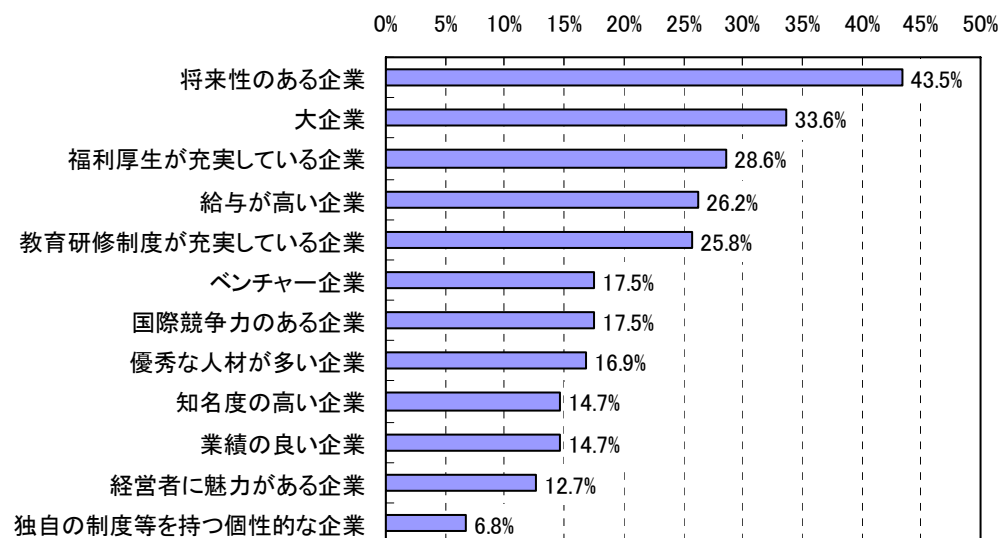
ITに関する仕事のうち興味がある仕事（専攻別）



- ◆ 上図は、前頁の結果を、専攻別に集計した結果。
- ◆ 情報系の学生の方が、様々な職種に対する興味を持っている。また、当然のこととも言えるが、この結果からは、情報系の学生の方が、ITに関する仕事の内容についてよく知っていると言える。

調査結果⑤ ～IT関連の仕事への興味～

ITに関する仕事をする場合に働きたい企業

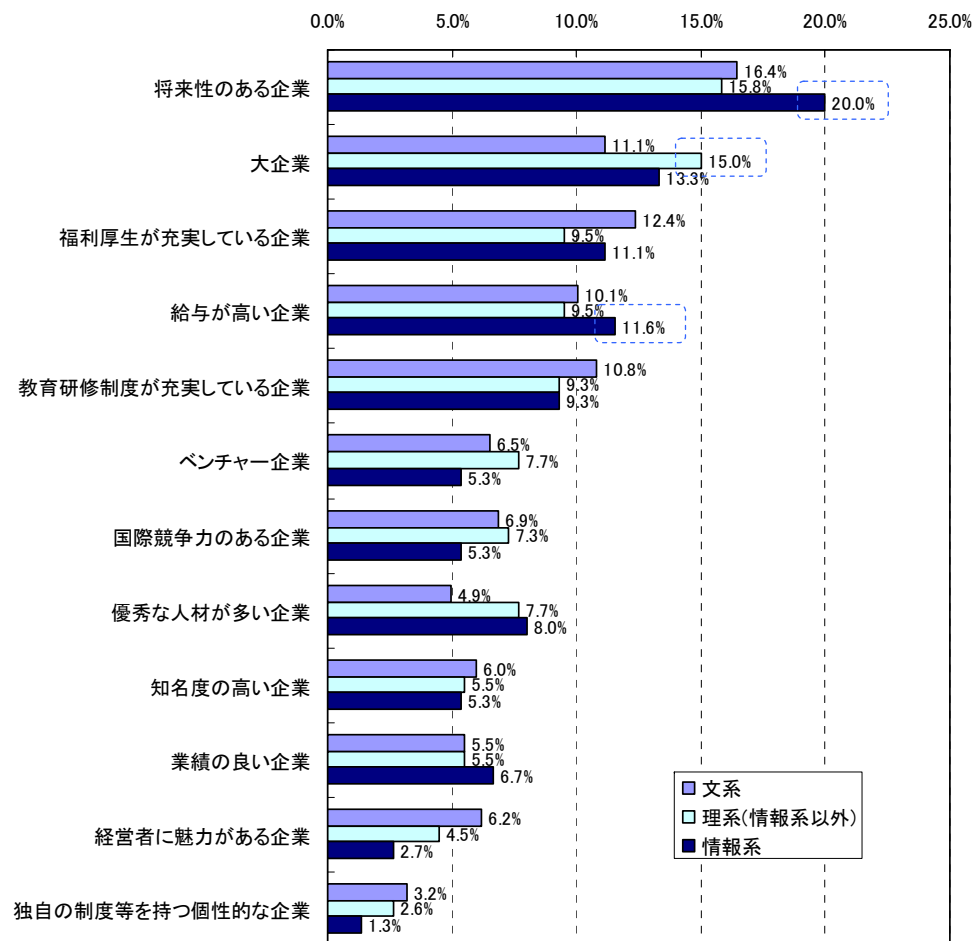


- ◆ 上図は、学生に対して、ITに関する仕事をする場合に働きたい企業を尋ねた結果。
- ◆ 最も多い回答は、「将来性のある企業」、続いて「大企業」、「福利厚生が充実している企業」、「給与が高い企業」、「教育研修制度が充実している企業」という結果になった。
- ◆ 次頁に、専攻別の集計結果を掲載。

調査結果⑤ ～IT関連の仕事への興味～

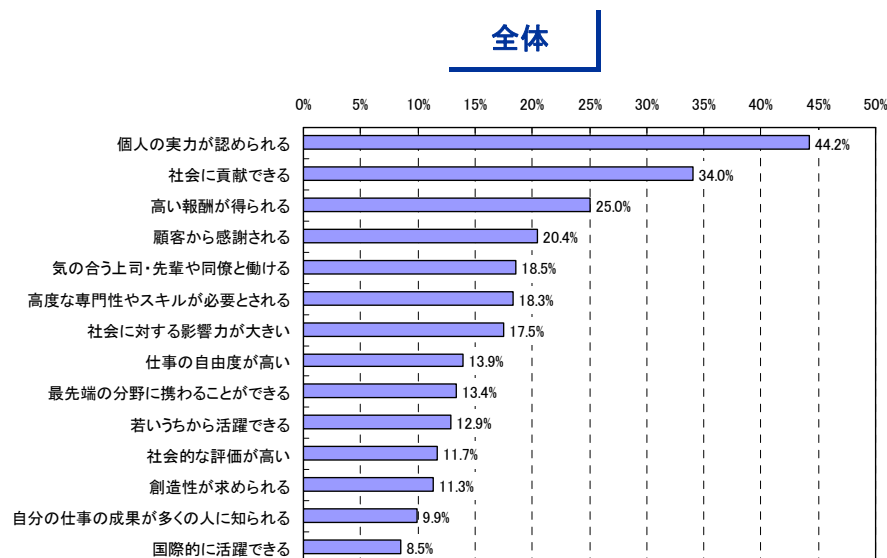
ITに関する仕事をする場合に働きたい企業（専攻別）

- ◆ 右図は、前頁の結果を、専攻別に集計したもの。
- ◆ 情報系の学生は、他専攻の学生より、「将来性」や「給与の高さ」を、やや重視する傾向がみられる。
- ◆ 情報系以外の理系の学生の中では、「大企業」との回答が若干高めとなった。

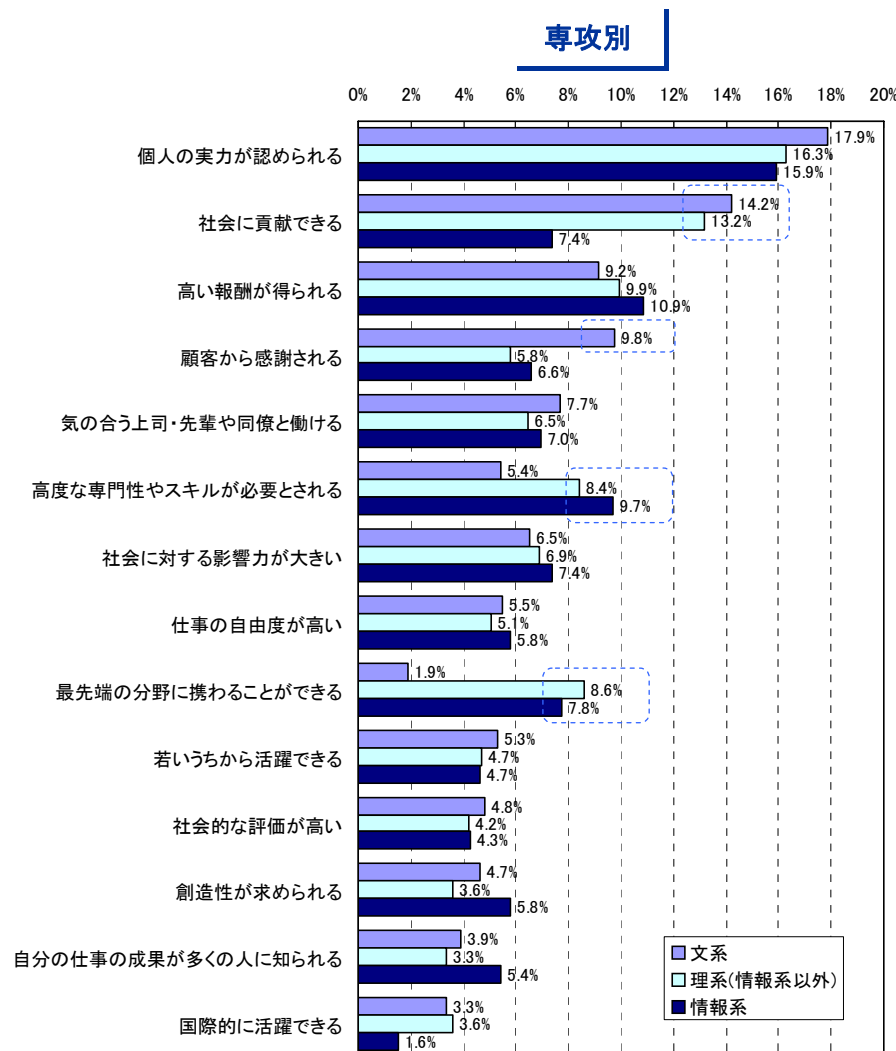


調査結果⑥ ～仕事におけるやりがい～

“やりがいのある仕事”の条件

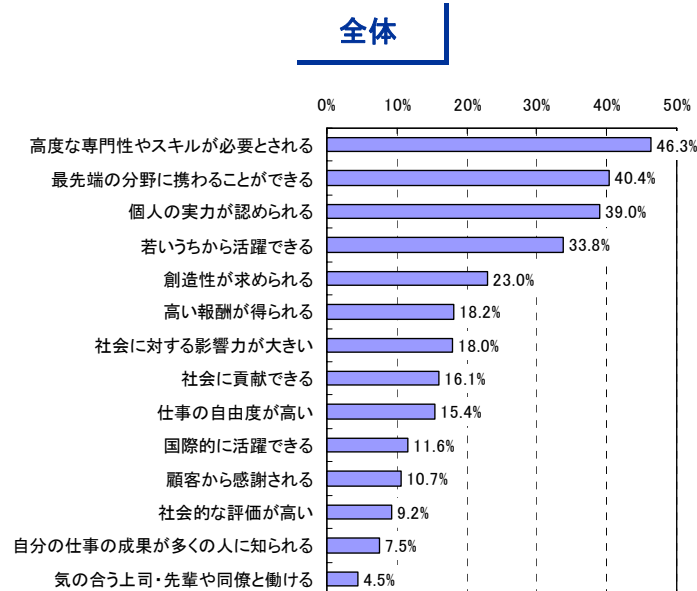


- ◆ 今回の調査では、学生に対して、「やりがいのある仕事の条件」を尋ねた。
- ◆ やりがいのある仕事の条件としては、「個人の實力が認められる」、「社会に貢献できる」、「高い報酬が得られる」、「顧客から感謝される」などの回答が上位となった。
- ◆ 「社会に貢献できる」は、特に、文系や情報系以外の理系に多い。

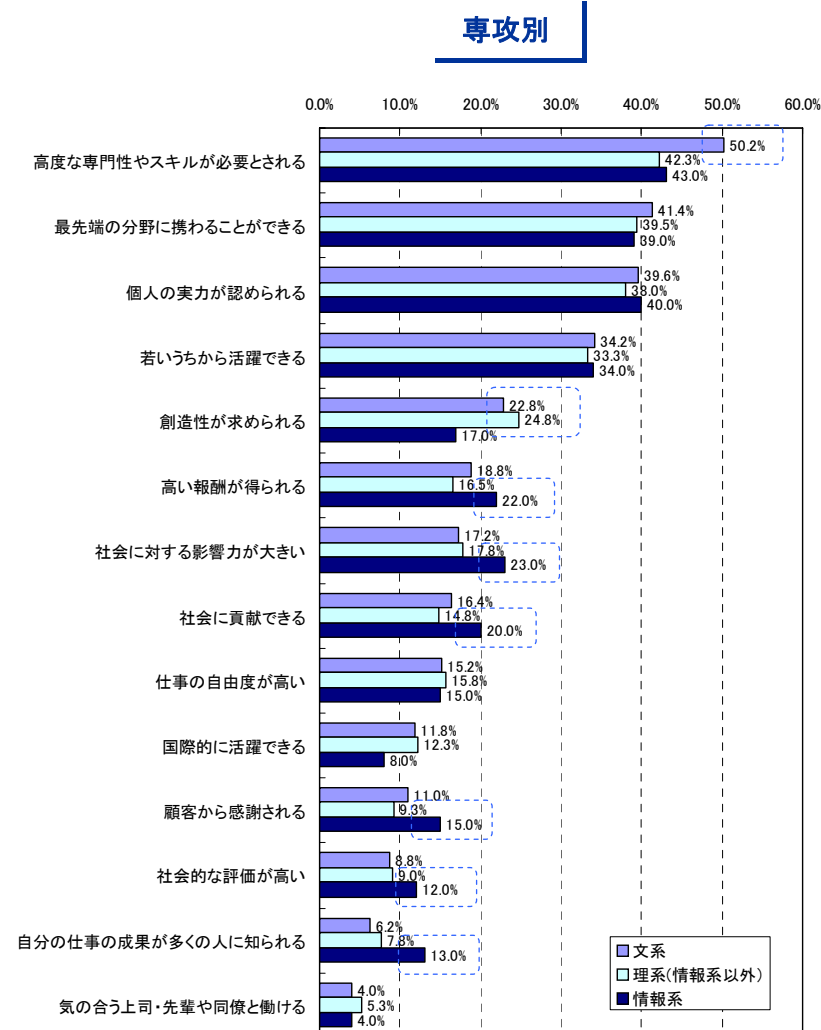


調査結果⑥ ～仕事におけるやりがい～

ITに関する仕事の“やりがい”

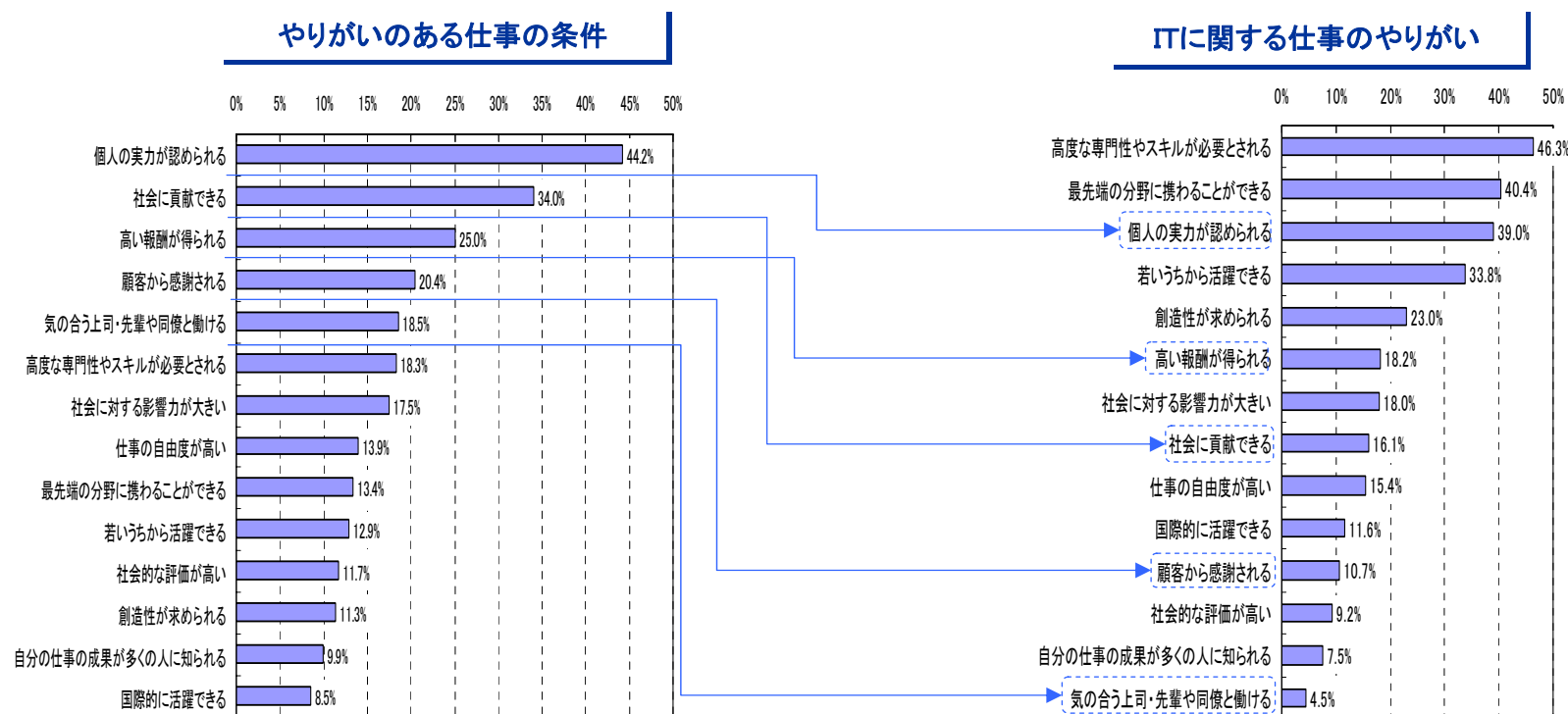


- ◆ 続いて、前頁の“やりがい”は、「ITに関する仕事についてどの程度当てはまるか」を尋ねた。
- ◆ 全体をみると、「高度な専門性やスキルが必要とされる」などの回答が上位となっている。
- ◆ 専攻別にみると、情報系と他専攻で差がみられ、ITに関する仕事の内容をよく知っている情報系の学生の方が、多くの点についてやりがいを感じ取っていることが分かる。



調査結果⑥ ～仕事におけるやりがい～

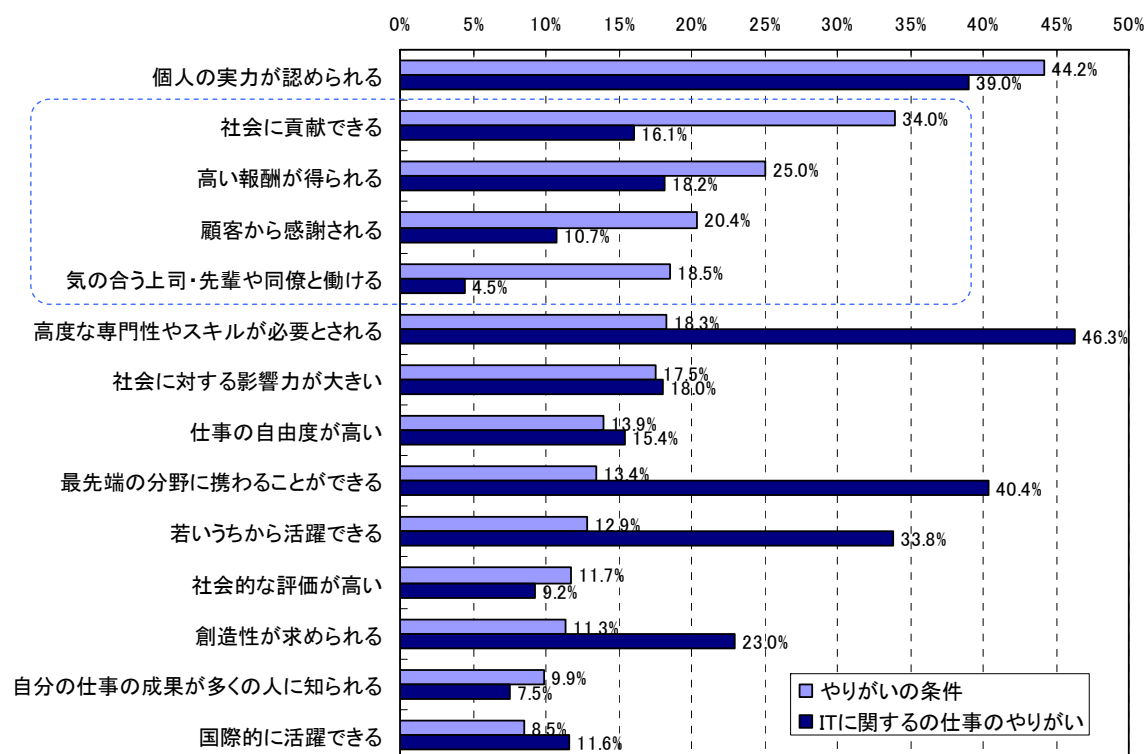
“やりがいがある仕事の条件”とITに関する仕事の“やりがい”の比較



- ◆ やりがいのある仕事の条件として上位に挙げられている、「個人の實力が認められる」、「社会に貢献できる」、「高い報酬が得られる」、「顧客から感謝される」、「気の合う上司・同僚と働ける」などの項目が、ITに関する仕事では、それほど上位にランクされていない（次頁に続く）。

調査結果⑥ ～仕事におけるやりがい～

“やりがいがある仕事の条件”とITに関する仕事の“やりがい”の比較



- ◆ 前頁の2つのグラフを併せると、「やりがいのある仕事の条件」として上位に挙げられた「社会に貢献できる」、「高い報酬が得られる」、「顧客から感謝される」などの項目が、「ITに関する仕事のやりがい」としては、回答率が低いことが分かる。この結果から、学生にとっての一般的な「やりがいがある仕事の条件」が、ITの仕事では満たされないイメージが持たれているのではないかと考えられる。

調査結果のポイントと提言

仕事の人気と学生の専攻選択

- ◆ 学生の多くは、専攻を選択する際に、将来の仕事を視野に入れている。そのため、仕事や産業に対するイメージは、就職以前の、学生が専攻を選択する段階にも影響を及ぼしている可能性が高い。(p.6～8)
- ◆ よって、特に、情報系学科が優秀な学生を獲得するためには、仕事や産業に対するイメージも重要であると言える。

情報サービス産業の人気やイメージ

- ◆ 情報サービス・ソフトウェア産業の就業人気を問題視する声もあるが、今回の調査では、その人気は中位に位置付けられており、全体の中では、それほど低いわけではない。(p.9・p.10)
- ◆ 「今後の日本を支えていく」産業としてのイメージが強いなど、学生は、情報サービス・ソフトウェア産業に対して、ポジティブなイメージも持っている。(p.12) 今後は、そのような積極的なイメージを打ち出していくことが重要である。

ITに関する仕事のやりがい

- ◆ 情報系専攻ではない(文系／情報系以外の理系の)学生が、ITに関する仕事に興味を持たない大きな理由の一つは、「仕事の内容がよく分からないから」。(p.17)
- ◆ 実際に、ITに関する仕事の具体的な内容をよく知っている情報系の学生の方が、その仕事の良さ(やりがい)を深く理解している。(p.19／p.23)
- ◆ 特に、やりがいがある仕事の条件として上位にあげられた項目のうち、「社会に貢献できる」「顧客に感謝される」「気の合う上司や先輩と働ける」などについては、ITに関する仕事には当てはまらないと、学生は感じている(p.25)
- ◆ 情報系専攻ではない学生に対しては、仕事の具体的な内容が伝わっておらず、そのため、情報サービス・ソフトウェア産業がどのように顧客や社会に貢献しているのかが、分かりにくい可能性がある。よって、今後は、これまで以上に、仕事の具体的な内容を、産業界から学生に伝えていくことが重要である。